

"The Dream Factory" リアリティーの手触り

ルイス・カナレス 著
渡辺 貴代子 訳

ショービジネス界の有名人によって書かれた自叙伝は数多くあり、アメリカや海外でもベストセラーになったりするが、自叙伝を執筆した後、第2の経歴として作家で名をあげる俳優は非常に少ない。女優、Janet Leighは『サイコ』『Psycho』（1960）『失われた時を求めて』『The Manchurian Candidate』（1962）などの代表作があるが、映画での大成功の後、Charlton HestonやKirk Douglas、Dirk Bogardeらと同じように、俳優転じて作家となった。

実に興味深い自伝“ There Really Was a Hollywood ”（1984）の出版の後、Janet Leigh はファンのために、Christopher Nickensと共に『サイコ・シャワー』『Psycho: Behind the Scenes of the Classic Thriller』（1955）を出版した。この2つの自伝的著作の後、ハリウッドを舞台にした小説、“ House of Destiny ”（1995）と“ The Dream Factory ”（2002）を発表し、隠れた文才の一面を見せてくれた。

1934年から1972年までが舞台の、“ The Dream Factory ” は、シカゴの中流階級の娘、Eve Handel の物語である。彼女は自分が何をしたいか、はっきりとわかっている女性で、ハリウッドで成功することが夢だった。20歳の時、Utopia Studios に雇われるが、女優としてではなく、有能な新人を発掘してトップクラスのスターに育てる、エージェントのような仕事だった。そのうちにEveはハリウッドの賞賛的になる。Sherlock Holmes のごときプロの目で、新しい才能を見つけだすとともに、映画産業の中で最もパワフルな女性の1人として認められるようになる。そして、他人の秘密は絶対漏らさない、その繊細な心遣いで信用され、彼女のところには有名人がトラブルの相談にやってくるようになる。

話は1972年の夏から始まる。Eveは生きるか死ぬかの命の瀬戸際で、病院に入院していた。彼女に秘密を打ち明けた人々は、彼女が隠し持ってい

る日記が気がかりだった。そして、話は1934年のシカゴ(イリノイ州)に戻り、日記に書かれたEveの人生と生活が語られはじめる。



フィクションでありながら、小説の中には、ファンタジーと現実が微妙に入り組んでいる。アメリカの歴史上でそして映画界で起こった、実在の出来事が織りまぜられていて、それがEveの人生により信憑性を持たせている。第二次世界大戦、マッカーシズムとハリウッド・スターの赤狩りを行う非米活動調査委員会、人類初めての月着陸、Marilyn Monroeの死(自殺?)、ケネディー一家2人とMartin Luther King, Jr. 牧師やMalcolm Xの暗殺。

映画ファンにとって“ The Dream Factory ” は、映画のタイトルとスターが、現実と架空と混ざり合い、どれが本物がクイズのように読むことになる。たとえば、『波止場』『On the Waterfront』（1954）『イースター・パレード』『Easter Parade』（1948）『不沈のモリー・ブラウン』『The Unsinkable Molly Brown』（1964）は実在の映画だが、“ Shining Armor ” と主演女優のCassandra Hollister は架空の名前である。（ときどき、私自身もよく知らないタイトルが出てくると、実在の映画かどうか、映画の参考本を引いて調べてみた。）

Eveを取り巻く人物にも、現実味を与えるために、たとえば、実際に俳優のPeter Lawfordと結婚したPatricia Kennedy Lawfordが登場する。彼女はラスベガスでFrank SinatraやDean Martinと会ったと話している。架空の人物も数多く存在する。Jenine Jasmine、Heidi Graham、Cassandra Hollister、それにEveの夫で、浮気者の俳優のMarc Savilleも、架空の人物である。2人は50年代60年代のJanet LeighとTony Curtis夫妻のように、映画界の賞賛的になる。

離婚、麻薬、セックス。後者に関しては、Janetはポルノ的でもなく下品でもなく、的確さと礼儀正しさを失わずに描かれている。